

(別表 1)

対象品目	品種	選定理由
みかん	宮川	栽培面積の全国シェアが 34%、県シェアが 32%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	興津	栽培面積の全国シェアが 18%、県シェアが 9%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	向山	栽培面積の全国シェアが 91%、県シェアが 15%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	林	栽培面積の全国シェアが 94%、県シェアが 17%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
中晩かん類	清見	栽培面積の全国シェアが 32%、県シェア（分母：中晩柑）が 13%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	不知火	栽培面積の全国シェアが 11%、県シェア（分母：中晩柑）が 13%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	はっさく	栽培面積の全国シェアが 61%、県シェア（分母：中晩柑）が 44%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	ポンカン	栽培面積の全国シェアが 6%、産地の東牟婁地域においては樹園地面積の 2 割を占める主要品種である。特に串本町では「くしもとポンカン」のブランド化により他産地との差別化を図っており、引き続き一定の需要が見込まれることから、競争力のある品種と認められる。
	じゃばら	県内で発祥・普及した品種であり、主産地の北山村では商標登録やネット販売等、村をあげてのブランド化に取り組むなど他産地と差別化されており、引き続き一定の需要が見込まれることから、競争力のある品種と認められる。
	ゆず	主産地の古座川町において樹園地面積の 5 割を占める主要品種であり、大手飲食店との協働による「古座川産ゆず」を前面に出した飲料開発等、加工品を中心としたブランド化をすすめており、引き続き一定の需要が見込まれることから、競争力のある品種と認められる。

(別表 1)

対象品目	品種	選定理由
うめ	古城	県内で育成・普及した品種であり、全国シェアは90%。小梅と南高の出荷谷間となる5月下旬に出荷が可能な早生品種であることや、外観の美しさから市場の高い評価を得ており、品種名を表示して取引されるなど、他の品種と差別化されている。引き続き一定の需要が見込まれることから、競争力のある品種と認められる。
かき	富有	栽培面積の全国シェアが13%、県シェアが17%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
もも	日川白鳳	栽培面積の全国シェアが15%、県シェアが15%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	白鳳	栽培面積の全国シェアが24%、県シェアが39%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	清水白桃	栽培面積の全国シェアが22%、県シェアが10%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	川中島白桃	栽培面積の全国シェアが7%、県シェアが11%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
すもも	大石早生	栽培面積の全国シェアが34%、県シェアが72%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	サンタローザ	栽培面積の全国シェアが42%、県シェアが12%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
	ソルダム	栽培面積の全国シェアが9%、県シェアが12%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
キウイフルーツ	ハイワード	栽培面積の全国シェアが15%、県シェアが94%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。
びわ	茂木	栽培面積の全国シェアが9%、県シェアが93%を占める競争力のある品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。

(別表 1)

対象品目	品種	選定理由
さんしょう	ぶどうさんしょう	さんしょう栽培面積の全国シェアは 53%。その大半を占めるぶどうさんしょうは県内で発祥・普及した品種であり、菓子メーカーとの協働による「和歌山県産ぶどうさんしょう」を前面に出した商品開発などブランド化を進めるとともに、他品種に比べて果皮の利用に適していることから特に香辛料や漢方薬としての引き合いが強く、引き続き需要が見込まれることから、競争力のある品種と認められる。
茶	やぶきた	栽培面積の全国シェアが 70%、県シェアが 96%を占める主要品種であり、需要に応じた生産量の維持が必要と認められる主要品種である。